

夢もっとよいろがれ

パストラルいぶき第2期事業準備特別号



発行・編集
いぶきファミリー
(いぶき福祉会後援会)

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL. 058-233-7445
FAX. 058-232-9140
E-mail: ibuki@alto.ocn.ne.jp



ご支援をよろしくお願いいたします。

念願のパストラルいぶき第2期事業が進んでいます。

準備の柱は①建設、②入居者募集および受入体制づくり、③資金づくり。それにあわせて、ひとりでも多くの方が障害のある方やその家族の願いや現状を理解・応援して下さるよう、保護者・職員を中心に知り合いひとりひとりにお声掛けをしている毎日です。

①と②の状況は10月号でご報告します。今号では、あらためていぶきファミリー会員の皆様に③資金作りの面でのご支援をお願いいたします。





いぶき福祉社会の基本理念は、
「どんな障害のある方も、生き生きと暮らしていける
地域社会の実現を目指し、障害のある方自身とその家族、
職員、地域の人々が力を合わせて活動していく」ことです。



そのために、以下の3つの柱をたてています。

1. 労働を通して障害のある方の発達を保障していきます。
2. 生活体験を広げ、人間らしく豊かな生活を目指します。
3. 障害のある方の権利保障を追及していきます。

この4月、いぶきファミリー初めての総代会で、いぶきの仲間たち、職員、保護者、法人理事、ファミリー役員のみなさんで、まとめた10年後のねがいです。

- ・10年後、仲間たちが、自分の給料と年金で暮らしていけるようになっていくこと
- ・10年後、障害のあるなしに関係なく、お互いを認めあえる地域になっていくこと
- ・10年後、障害があっても好きな暮らしを自分で選び、いきいきと暮らしていること

いぶき福祉社会は「働く場づくり」から始まりました。でも働くためには安心できる暮らしが必要です。自分で自分の暮らしを助けなしで支障なく営むことができる人は、いぶきではほんの数人しかいません。だから仲間たちの安心できる暮らしをつくることは、私たちみんなの願いです。パストラルいぶき第2期は、障害の重い仲間たちにも、家族と暮らすこと以外にもこんな暮らし方があるというひとつの選択肢を形にするものです。それは我が子の「親あるうち」と「親亡き後」を考えるご家族の暮らし方の選択を増やすことでもあります。

2018年3月の「第5期岐阜市障害福祉計画」では、岐阜市在住の知的障害のある人の7割が自宅生活を希望しています。でも、主な支援者が支援できなくなった時には、施設入所やグループホームの利用を希望する方が5割を超えています。知的障害のある人の主な支援者の61.5%が父母で、そのうち60歳以上が42.5%を占めています。

いぶき福祉社会の生活介護・就労継続支援事業を利用する方の平均年齢は36.4歳。比較的若い印象がありますが、50歳以上の方は22名。そのうち11名の方は60歳を超えています。いぶきの仲間たちにとっても、のんびり構えていることはできない現状がすぐそこにあります。

◎いぶきのグループホームのこと

いぶき福祉社会には現在、6棟のホームがあり、全部で40人の仲間が暮らしています。あらためてご紹介します。

2000年、岐阜市則武に民家を借りて、女性の仲間4人の共同生活が始まりました。「しまホーム」の始まりです。その後2014年に東島に移転。いまでは6人の仲間が暮らしています。

2002年には「さぎやまホーム」で4人の男性の仲間が暮らし始めました。今では道ですれ違えば声をかけてもらい、年に一度の自治会の忘年会にも招いてくださいます。2004年には隣に「さぎやま第二ホーム」ができました。さぎやま第二ホームは2013年に島新町に移転しています。そして、重度重複障害や、夜間を通しての支援が必要な方も暮らせるようなホームとショートステイの複合施設を作ろうと、いぶき福祉社会・いぶきファミリーあげて取組んだのが「パストラルいぶき」でした。名簿があるだけでも6000人の市民の方々から7000万円以上の募金をいただいて、2011年4月、18人が暮らし、2室のショートステイのある場が完成しました。

そして今、このたびようやくパストラルいぶき第2期事業を進めることができています。



グループホームで暮らすこと

家族と離れてグループホームに暮らすことは、仲間と家族にとってはとても大きな一歩です。しかし希望と不安が入り交じるものでもあります。そんな不安に丁寧によりそった記録があります。

ホームで新しい暮らしを始めた藤田佳美さんと若いスタッフたちの育ち合いの記録です。来年の春から始まるパストラル第2期でも、きっとこんな風景が広がることと思います。私たちがつくりたいのは、建物ではなく、暮らしなんだとあらためて思っています。抜粋して掲載します。



2014年7月、法人設立20周年の事業のひとつ「いぶきの実践の本質を確かめ合う会」の発表より

第二いぶき(生活介護)で藤田さんと仕事をしている上野と、パストラルで暮らしの支援を担当している小田です。これから藤田佳美さんのことを、お話させていただきます。

上野: 佳美さんは1984年生まれ。中濃特別支援学校で中学部、高等部と過ごしましたが、高等部を中退して第二いぶきに来ることを決めました。友達と一緒に卒業したかったと思います。でもこの頃は、卒業しても行き先がなく、中退してでも来るという選択しかなかったのかもしれない。第二いぶきでの新しい生活。最初は、心が落ち着かなくて、不安いっぱいな毎日でしたが、頼りになる職員もでき、楽しく過ごしてきました。仕事だけでなく、なつまつりや小旅行、もちつき大会などいろいろなことを経験し、いろんな力をつけてきました。

2つ目の大きな節目がパストラルへの入居でした。週末は実家に帰るため、パストラルと行き来する生活がはじまりました。

小田: パストラルは6人の仲間との共同生活です。藤田さんは家族のことが大好きで、ご家族とのできごとを嬉しそうに話をしてくれます。そんな佳美さんを、ご家族がパストラルに入居させる決断されたのは『自分たちが元気なうちにホームでの生活をはじめることができるなら支えてあげられる』と思ったからでした。実は藤田



藤田佳美さん

さんと過ごしていく中で、私たちが本当に反省していることがあります。それは、ホームで暮らすことについて、ご家族と一緒にあらかじめ藤田さんに話をしなかったことでした。大好きな家族がいる家があるのに、なぜパストラルに泊まらなければいけないのだろうという不安や不満が、家に帰りたいたいという気持ちをより一層強くしていたようにも思います。「今日は泊まらないよ」「お母さんが迎えに来るって」とカバンを肩にかけ、玄関から出ていこうとすることが何度もありました。そのたびに「家が良いんだよね」「あと何回泊まったら家に帰るんだよ」と帰れないわけではないことを伝えてきました。「連れてかんといてよ」と大きな声で叫ぶ姿に、こんな思いをしてまで泊まらなければいけないのだろうかと思うこともありました。藤田さんは本当に辛かったと思いま



す。分かっているけども帰りたくて葛藤していたように見えました。ですから、無理に送迎車から降りることを誘わず、自分で気持ちを整理できる時間をつくったり、ホームの中の様子が見える位置に車を止めながら、自分から降りてくることができるようにつきかけをつくったりしてきました。時間が経つにつれて、自分の中で折り合いをつけて車から降りてくるのが少しずつ増えてきました。

上野: そんな時に第二いぶきで、心の支えだった職員の森山さんが異動になり、藤田さんが、不安な時に心を寄せられる人が、作業部屋ではいなくなってしまったのです。心身的な不安やストレスからか、これまで日中ではなかった発作が起きるようになりました。

小田: パストラルでも発作の回数が増えていました。それは、環境の変化による睡眠不足、自分の思いを受け止めてくれる安心できる人、頼れる人がいないというストレスなどが要因だと考えました。少しでも不安な気持ちを和らげることができるだろうかと、「これ読んでくれませんか？」と本棚から持ってきた藤田さんの好きな『となりのトトロ』の本を読んだり、ホッと一息つけるように、ココアなどの温かい飲み物を飲んだりしました。人と一緒にいることで表情が和らぎ、心を落ち着かせて過ごす姿もありました。睡眠時間が安定し、発作の回数が減っていくまでに三年か



かりました。表情や様子からは、ホームでの暮らしに慣れてきているように見えていましたが、環境の変化に体も心も慣れていくまでには、長い時間がかかることを藤田さんが教えてくれました。環境のなれもありますが、辛いときも側で寄り添ってくれる人がいる、自分の事を分かろうとしてくれる人がいるという安心感がもてるようになってきたことも大きかったと思います。

上野: パストラルでの発作が落ち着くと、第二いぶきでの発作もほとんどなくなりました。体も楽になってきて、活動にもしっかりと参加できるようになりました。そして、パストラルでの暮らしもなんとなく「実家じゃないけど居てもいいかな、居心地わるくないし」と思えるようになってきました。藤田さんの思いを避けたりごまかしたりするのではなく、事実をしっかり藤田さんと向き合って伝える支援をしてきました。そんな中で日中でも心を寄せる人ができて、心身的にも安定してきました。

小田: パストラルに帰宅してくると、「ただいまー！泊まってくで」「待っててくれたの?!」と言って車からスッと降りられるようにもなりました。以前は第二いぶきでお母さんと会うと、必ずと言って良いほど「帰りたい」と言っていたのですが、今はほとんど言わなくなっています。家では「お母さんのために帰ってきたって」ということもあるようですが。ここに居ても良いなと思えてもらえる感じです。自分の暮らしを自分で創っていけるようにサポートしてきたからかもしれません。CDを聴いたりTVを見たり、掃除をしたり。やりたいことができるように見守ってきました。決められた時間を過ごすのではなく、入



りたいときにお風呂に入ることができたり、寝たいと思ったときに寝ることができたり。その時の気分や体調、日によって違う仲間の思いを大切にしてきました。そんなことを積み重ねていくことで、自分の思いが実現できる心地よさを感じているように思います。

ただ、他の仲間と一緒に暮らしているため自分の思いが全て実現できるとは限りません。藤田さんは、体調によっては口調が強くなってしまい、上手く人と関わることができないこともありました。職員と話したいことを一緒に整理してみたりします。今では同じ部屋の木谷さんが「報告があるんやけど」と仕事の話をしていると、「佳美ちゃんも報告があるんやけど」と言って、「仕事してきたんやて」「散歩行ってきて、花とってきたんやて」「馬もおって、豚もおって…」と負けじと自分の話をしています。やりとりも自然と増えてい

きました。藤田さんの体調が悪いと心配してくれたり、体調が良いときは「元気やね」「唄歌っとるね」と



嬉しそうにしてくれたりする仲間が何人もいます。仲間たちもそのままの藤田さんを受け入れてくれているのだと思うのです。みんなから愛されている、必要とされていることを感じながら、ここに居てもいいなと思える、居心地の良い空間となっているのだと思います。これからも藤田さんと一緒に、つらいことも、楽しいことも、いろいろな経験をして、向き合うことを大切にして支援していきたいと思っています。

それから5年。



藤田さんは今でも、パストラルで暮らしながら、第二いぶきに通い、週末には帰省しています。

第二いぶきでの仕事は、草木染から張り子づくりに替わりましたが、やっぱり一人で仕事をするよりも、誰かと一緒にするのが好き。誰かを応援するのも大好きな、工房のムードメーカーであることにかわりありません。

週末の帰省は、大好きな家族に会えるのももちろん嬉しいのですが、お母さんたちのために帰ってあげている(?)ところもあるのかもしれません。

「佳美さんはまだまだやっぱり自宅が一番好きなんだと思います。でも、パストラルは自分の居場所として根付いているから、ショートステイにきた仲間には、お姉さんようになって部屋を案内したり、大丈夫だよといってあげたりしています。パストラルで、職員も仲間もかかわる時間も人も増えて、好きな人がどんどん見つけられるようになったのだと思います」と職員も話しています。

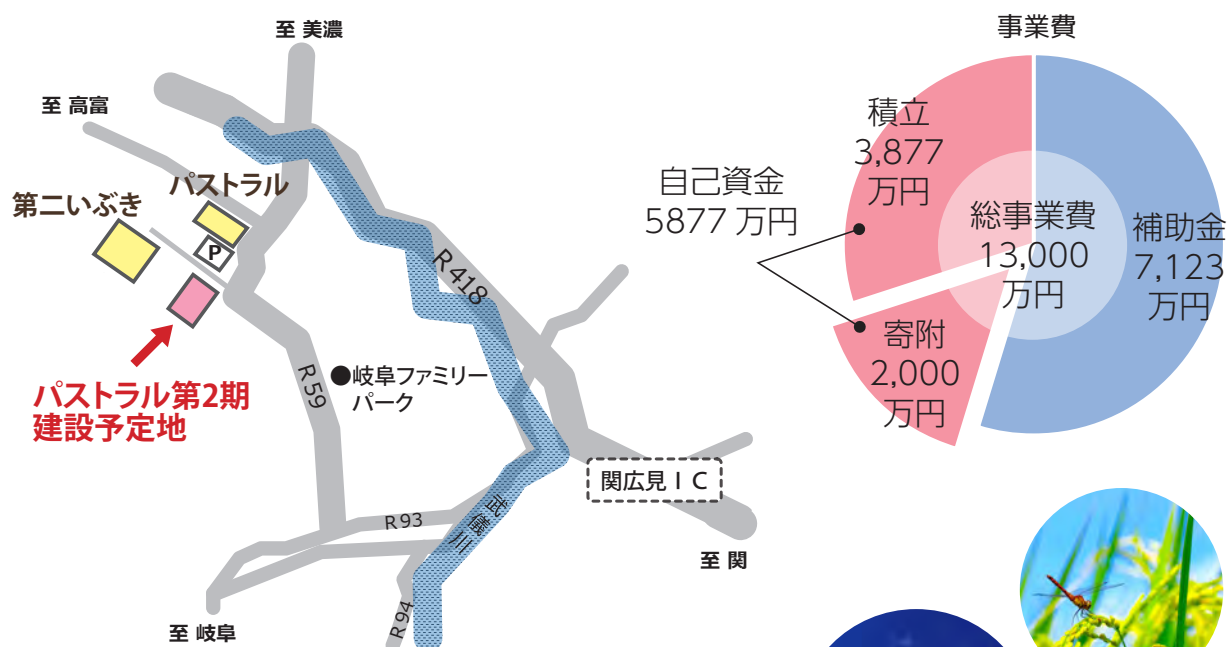
お母さんは、佳美さんが小さい頃から、ずっと今のパストラルのような暮らしを願ってきたそうです。「いやで飛び出してくるようなことが一度もなく、職員の方が本当に丁寧に接してくださったんだと思います。今なら私もまだ車も運転できるので、会いにも行けるし、週末娘の好きなことをやらせてやることもできます。それは、何よりも安心があるから。だからこそ、こういう暮らしをしたいという仲間がいる限り、次のホームのために私も頑張りたい」と語ってくださいます。誰かの努力のおかげで今の自分の幸せがある。だから自分だけではなく、みんなの幸せのためにできることをつづきたい。それがいぶきらしさだとつくづく感じています。

パストラルいぶき第2期では10人の入居者を予定しています。10人の新しい物語をお伝えできる日を楽しみにしております。



事業計画

建物の概要	定員10名のグループホームとショートステイ2室、障害者等の緊急受入れ先である防災拠点(避難スペース)をそなえた木造一部2階建て 515㎡
建設予定地	岐阜市出屋敷(岐阜ファミリーパーク北2km) いぶき福祉会第二いぶき・パストラルいぶきに近接
予算概要	総事業費：1億3,000万円 資金内訳：補助金／7,123万円 自己資金／5,877万円



第二いぶき

パストラルいぶき第2期

パストラルいぶき





パストラル第2期の中はこんなかんじです。

木のぬくもりのある2階建ての建物には10人の仲間が暮らします。そして、ショートステイと防災拠点の機能もあります。グループホームは一人になりたい人、たくさんお話ししたい人、元気いっぱいの人、車いすの人、いろんな人が自分らしくほっとできる場所です。ショートステイや避難スペースはもしもの時でも安心して生活をするための場所です。



《9月9日現在ご寄附の状況》

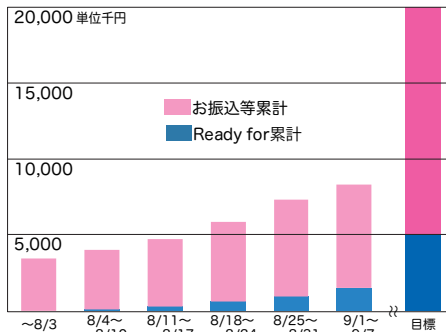
件数 845名 8,395,651円 達成率 42.0%

- ・一般(お振込み、直接お預かりした場合など)・・・ 670名 6,854,651円 目標 1500万円のうち 45.7%達成
- ・クラウドファンディング(Readyfor)・・・ 175名 1,541,000円 目標 500万円のうち 30.8%達成

応援を
おねがい
いたします!

寄附ご支援の週別推移

月 日	件数	累 計	
		お振込等累計	Ready for累計
～8/3	286	3,425,892	0
8/4～8/10	353	3,916,484	97,000
8/11～8/17	477	4,442,824	275,000
8/18～8/24	578	5,259,740	597,000
8/25～8/31	699	6,374,375	939,000
9/1～9/7	808	6,804,116	1,484,000
目 標		15,000,000	5,000,000



目標は 10/31まで 2,000万円。あと、51日で 11,604,349円

おすすめ!

クラウドファンディング(Ready for)の場合

サイトを、①見てください

②お知らせに紹介してください

③ご支援ください



クラウドファンディングとは…

インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみです。欧米では、一般的な資金調達の方法として早くから認知されています。



<https://readyfor.jp/projects/ibukiyumehiro2020>

Readyfor の登録・支援方法

◆メールアドレスかフェイスブックで登録

1. Readyfor TOPページの右上にある【ログイン】をタップ。
2. 【メールアドレスで登録】又は、【Facebookで登録】を選択。
3. メールの方は以下を入力し、【アカウントを作成】をタップ。
・お名前(ニックネーム) ・パスワード
・メールアドレス ・パスワードの確認
4. Readyforから届くメールの本文内のURLをタップ。

◆ログイン方法

1. Readyfor TOPページの右上にある【ログイン】をタップ。
2. メールアドレスで新規登録された方は登録したメールアドレスとパスワードを入力し、【ログイン】
Facebookで登録された方は、メールアドレスか電話番号とパスワードで【ログイン】

◆支援方法

【このプロジェクトを支援する】からリターンを選択

支援したいリターンの個数をお選びください。

支払方法(クレジットカード)または(銀行振込)を選択

【次に進む】

支払情報の入力

確認画面にて内容をご確認いただき完了!

銀行振込・郵便振込の場合

10,000円・5,000円・3,000円・1,000円

▶銀行振込

大垣共立銀行島支店 普通口座 口座番号 194911
口座名義 いぶき福祉会ケアホーム・レスパイト設立委員会

▶郵便振替

口座番号 00830-1-106080
口座名義 いぶき福祉会ケアホーム・レスパイト設立委員会

お届けくださる場合

- ☐ いぶき福祉会本部 岐阜市島新町5-9
- ☐ いぶき福祉会第二いぶき 岐阜市出屋敷493
- ☐ JR岐阜アクティブG2Fねこの約束 岐阜市橋本町1-10-1

お問合せ

いぶきファミリー事務局 (いぶき福祉会後援会)

TEL 058-233-7445・FAX 058-232-9140

E-mail ibuki@alto.ocn.ne.jp